

Iwatani

**2022年3月期
決算説明会**

2022年5月20日

岩谷産業株式会社

- 2022年3月期 決算概況
- 2023年3月期 通期業績予想
- 成長戦略について

2022年3月期 決算概況

増収の要因分析

Iwatani

(単位：億円)

	2022年 3月期 実績	2021年 3月期 実績	前年差 (増減額)	2022年 3月期 通期予想 (※)
売上高	6,903	5,622	+1,281	6,840
売上総利益	1,917	1,762	+155	-
営業利益	400	293	+107	380
営業外損益	63	48	+15	50
経常利益	464	341	+122	430
市況要因を除く 経常利益	384	323	+60	-
親会社株主に 帰属する 当期純利益	299	230	+69	270

売上高増減

21年3月期
通期実績

22年3月期
通期実績

売上高増減の要因分析:

- 総合エネルギー: +734
- 産業ガス・機械: +122
- マテリアル: +392
- 自然産業: +30
- その他: +1
- 合計増収: +1,281 (+22.8%)

(※) 2022年2月4日公表数字を記載

Copyright © Iwatani Corporation. All rights reserved.

売上高は、工業分野向けを中心に、主力商品の販売が増加し、全セグメントで売上が増加したことに加え、LPガス輸入価格が高値で推移したこともあり、前期に比べ1,281億円、22.8%増収の6,903億円となりました。

売上総利益は、主力商品の販売増に加え、LPガスの市況要因のプラス影響もあり、前期比155億円、8.8%増益の1,917億円となりました。

増益の要因分析

Iwatani

(単位：億円)

	2022年 3月期 実績	2021年 3月期 実績	前年差 (増減額)	2022年 3月期 通期予想 (※)
売上高	6,903	5,622	+1,281	6,840
売上総利益	1,917	1,762	+155	-
営業利益	400	293	+107	380
営業外損益	63	48	+15	50
経常利益	464	341	+122	430
市況要因を除く 経常利益	384	323	+60	-
親会社株主に 帰属する 当期純利益	299	230	+69	270

営業利益増減

21年3月期
通期実績

22年3月期
通期実績

293

+57

+25

+25

-1

0

400

+107
(+36.5%)

(※) 2022年2月4日公表数字を記載

Copyright © Iwatani Corporation. All rights reserved.

営業利益は、販売増加に伴う物流費の増加や、設備投資に伴う減価償却費の増加等により販管費が47億円増加し、前期比107億円36.5%増益の、400億円となりました。

営業外損益は、持分法による投資利益などが増加したことにより、前期比15億円の収益改善となり、経常利益は、前期比122億円35.9%増益の、464億円となりました。また、当期純利益は、前期比69億円増益の299億円となりました。

この結果、7年連続で過去最高益を更新いたしました。

L Pガス輸入価格の変動による増減益効果（イメージ） **Iwatani**

- 前提** ①卸売価格は L Pガス輸入価格に連動 ②輸入～販売の期間は約3ヶ月

卸売価格 \propto L Pガス輸入価格
 （中東玉（CP）と米国玉（MB）※で構成）

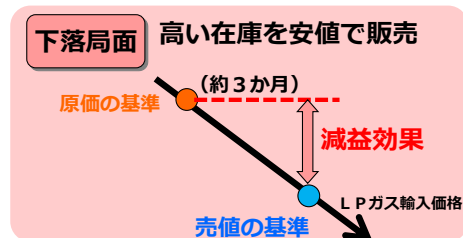
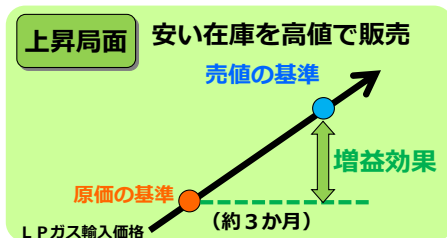
※CP（コントラクトプライス）：中東からの輸入価格
 MB（モントヘルビュー）：米国からの輸入価格



L Pガス輸入
 価格が変動

短期的に業績に影響が生じる（市況要因の発生）

（L Pガス輸入価格が元の水準に戻れば影響はゼロ）※



※在庫量・販売時期・販売数量等によって実際の業績への影響は変動します

Copyright © Iwatani Corporation. All rights reserved.

5

LPガスの輸入価格の変動が業績に与える影響について、ご説明します。
 当社は、LPガスを中東と米国から輸入しており、輸入価格の変動を
 平準化するため、多くの卸売先との間で、販売価格を輸入価格に
 連動させる価格体系にしています。

一方、当社では在庫評価について、「先入れ先出し法」を採用していますが、
 LPガスの輸入から販売まで、時間がかかるため、販売するには、
 約3ヶ月前の在庫を販売することになります。

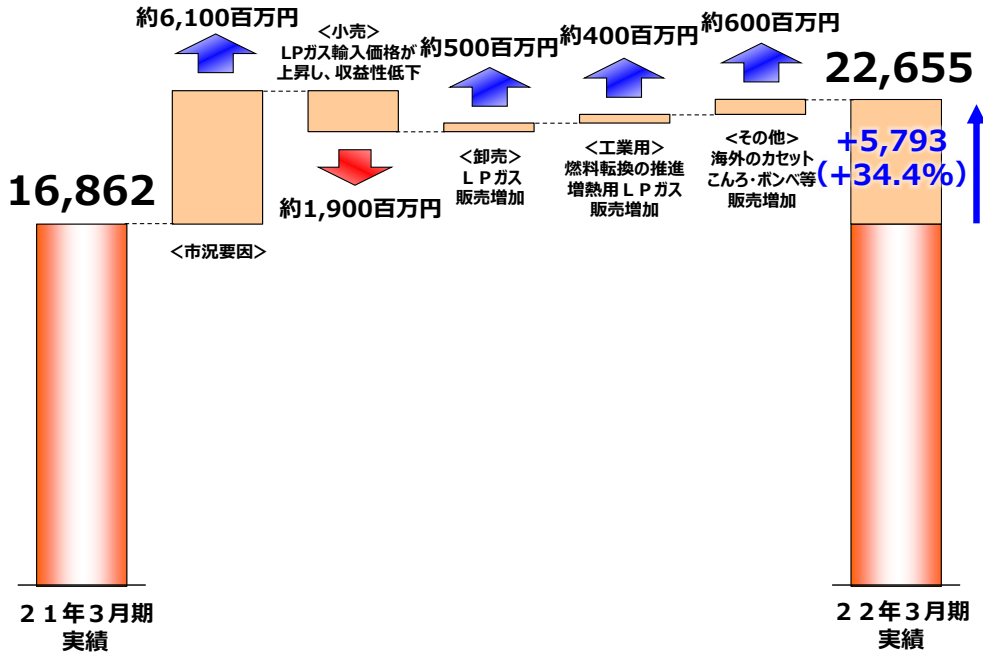
この結果、LPガス輸入価格の上昇時には安い原価の在庫を
 高く売ることになる一方、下落時には高い原価の在庫を
 安く売ることとなります。

これらの影響を、「市況要因」と呼んでおります。

なお、CPの推移については、決算短信の28ページに記載しております。

総合エネルギー事業 営業利益増減分析

Iwatani
(単位：百万円)



Copyright © Iwatani Corporation. All rights reserved.

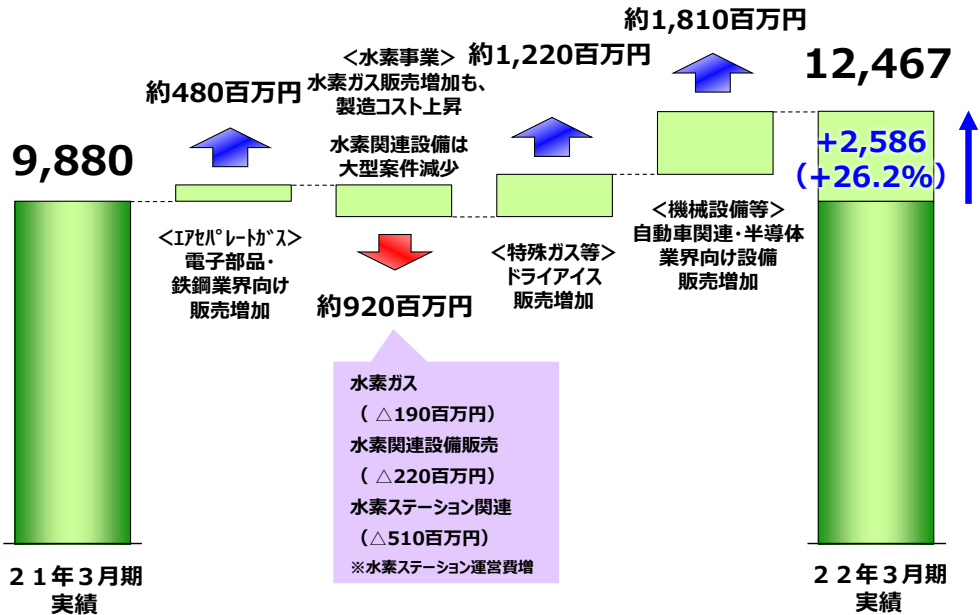
6

総合エネルギー事業は、LPガス輸入価格の上昇により、小売部門の収益性が低下しましたが、市況要因は前期比61億円の大幅なプラスとなりました。

加えて、業務用LPガスを中心とする卸売の販売拡大、低炭素化に向けた燃料転換案件の増加、並びに海外でのカセットこんろ・ボンベの販売増加などにより、営業利益は34.4%増益の226億円となりました。
なお、3月末時点のLPガスの直売顧客数は、103万世帯となっております。

産業ガス・機械事業 営業利益増減分析

Iwatani
(単位：百万円)



Copyright © Iwatani Corporation. All rights reserved.

7

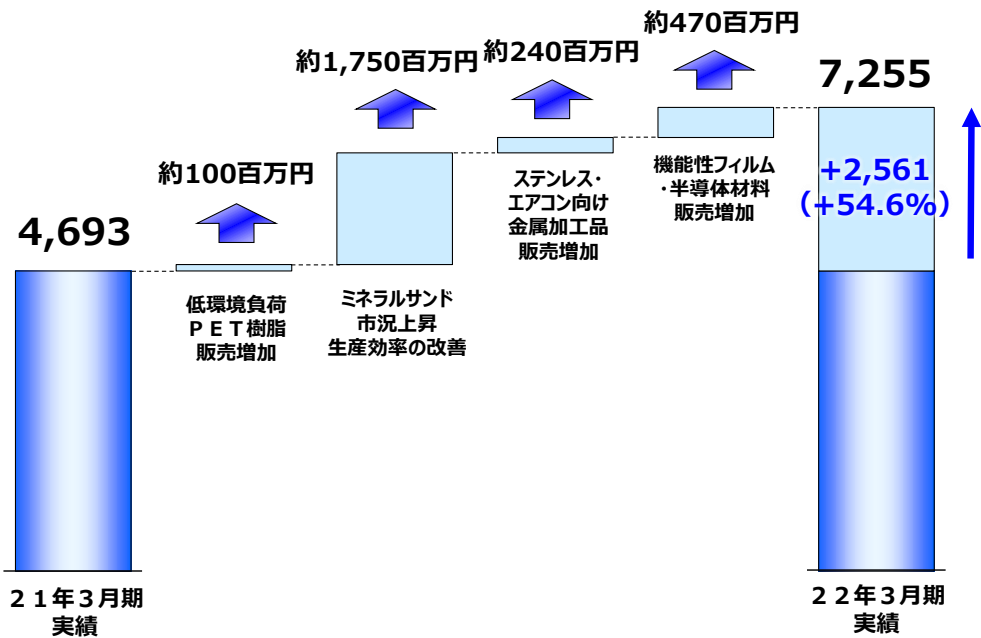
産業ガス・機械事業は、エアセパレートガス(酸素・窒素・アルゴン)については、電力料金の上昇による製造コストの増加があったものの、電子部品業界向けを中心に販売が伸長しました。

水素事業については、ユーザーの稼働回復により水素ガスの販売は増加しましたが、電力等の製造コストが上昇したことに加え、水素関連設備で大型案件が減少したこともあり、減益となりました。但し、水素事業全体としては、黒字を確保しております。

また、新型コロナワクチン向けのドライアイスなど特殊ガスの販売が拡大するとともに、設備需要の回復に伴って、機械設備も販売が増加した結果、営業利益は26.2%増益の124億円となりました。

マテリアル事業 営業利益増減分析

Iwatani
(単位：百万円)



Copyright © Iwatani Corporation. All rights reserved.

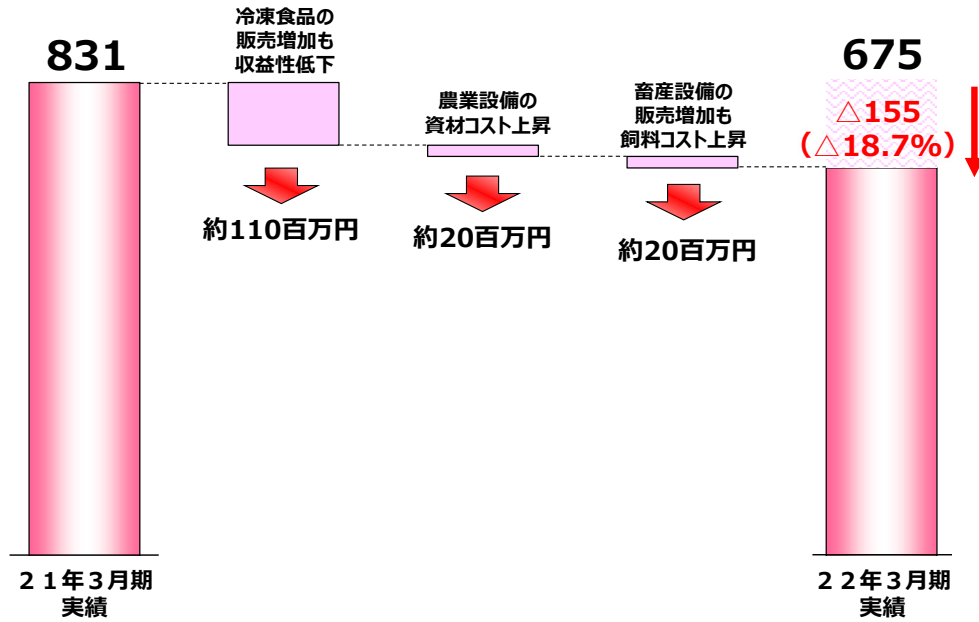
8

マテリアル事業は、ミネラルサンドにおいては、世界的なサプライチェーンの混乱を受けた、供給制約により市況が上昇する中で安定供給を確保したことに加え、豪州の自社鉱区で生産効率の改善が進んだことにより、収益が増加しました。

また、金属加工品は、エアコン向けを中心に販売が増加し、機能性フィルムについてもスマートフォン向けの販売が伸長しました。この結果、営業利益は54.6%増益の72億円となりました。

自然産業事業 営業利益増減分析

Iwatani
(単位：百万円)



Copyright © Iwatani Corporation. All rights reserved.

9

自然産業事業は、業務用冷凍食品の需要回復に加え、一般消費者向け冷凍食品の販売が増加しましたが、仕入れコストおよび物流費が上昇しました。また、農業・畜産設備においても販売が増加しましたが、資材コスト等が上昇しました。

この結果、営業利益は18.7%減益の6億円となりました。

貸借対照表（連結）

Iwatani
(単位：億円)

	2022年 3月末	2021年 3月末	前年差 (増減額)	主な増減理由・備考
流動資産	2,594	2,221	+373	売上債権および棚卸資産の増加
有形固定資産	1,857	1,780	+77	水素ステーション建設、産業ガスの製造設備、LPガスセンター等への投資
無形固定資産	161	174	△13	
投資その他の資産	970	943	+26	
固定資産	2,990	2,899	+91	
総資産	5,584	5,120	+464	
流動負債	1,863	1,709	+153	短期借入金の増加
固定負債	918	874	+44	グリーンボンド発行による社債の増加 長期借入金の減少
負債	2,781	2,584	+197	有利子負債 1,111億円 有利子負債依存度 19.9%
自己資本	2,701	2,441	+259	自己資本比率 48.4%
非支配株主持分	101	94	+7	
純資産	2,803	2,535	+267	
負債・純資産	5,584	5,120	+464	

Copyright © Iwatani Corporation. All rights reserved.

10

主な財政状態についてご説明します。

3月末の総資産は、前期末比464億円増加の5,584億円となりました。

自己資本は、前期末比259億円増加の2,701億円となり、

その結果自己資本比率は0.7ポイント改善し、48.4%となりました。

有利子負債は、運転資金の増加により、前期末比149億円増加し、

1,111億円となり、有利子負債依存度は1.1ポイント増加し、

19.9%となりました。

キャッシュ・フロー計算書

Iwatani

(単位：億円)

	2022年3月期 実績	2021年3月期 実績	前年差 (増減額)
営業キャッシュ・フロー	130	487	△357
投資キャッシュ・フロー	△319	△288	△31
フリー・キャッシュ・フロー	△188	199	△388
財務キャッシュ・フロー	80	△70	+150
換算差額等 ※1	19	4	+15
現預金等の増減額 ※2	△88	133	△221
現預金等の期首残高	384	251	+133
現預金等の期末残高	295	384	△88

※1 「換算差額」「連結の範囲の変更に伴う増減額」「非連結子会社との合併に伴う増加額」の合計を表示しております。

※2 「現預金等の期首残高」と「現預金等の期末残高」の差額を表示しております。

Copyright © Iwatani Corporation. All rights reserved.

11

キャッシュフローについてご説明します。

営業キャッシュフローは、売上債権や棚卸資産の増加などにより
前期比で357億円減少し、130億円の収入、

投資キャッシュフローは、LPガス・各種産業ガスなどの
供給体制増強のための投資、水素ステーション関連の投資などがあり、
319億円の支出となり、結果、フリーキャッシュフローは
マイナス188億円となりました。

また、財務キャッシュフローについては、社債の発行などより
80億円の収入となりました。

2023年3月期 通期業績予想

2023年3月期 通期業績予想

Iwatani

(単位：億円)

	2023年3月期 業績予想	2022年3月期 実績	前年差 (増減額)	前年比 (%)
売上高	8,030	6,903	+1,126	+16.3%
総合エネルギー事業	3,592	3,271	+320	+9.8%
産業ガス・機械事業	2,282	1,843	+438	+23.8%
マテリアル事業	1,806	1,509	+296	+19.6%
自然産業事業	307	233	+73	+31.3%
その他	43	45	△2	△5.2%
営業利益	350	400	△50	△12.7%
総合エネルギー事業	156	226	△70	△31.1%
産業ガス・機械事業	134	124	+9	+7.5%
マテリアル事業	82	72	+9	+13.0%
自然産業事業	11	6	+4	+62.8%
その他・調整額	△33	△29	△3	-
経常利益	410	464	△54	△11.7%
市況要因を除く経常利益	410	384	+25	+6.7%
親会社株主に帰属する当期純利益	265	299	△34	△11.6%
想定レート	(上期) 為替 120円/\$ (下期) 為替 120円/\$	LPガス輸入価格 700\$/ト LPガス輸入価格 750\$/ト		

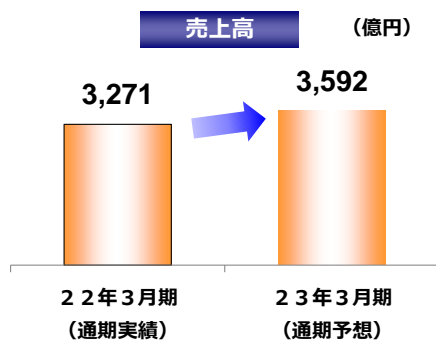
Copyright © Iwatani Corporation. All rights reserved.

13

2023年3月期の見通しについては、業績は概ね順調に推移する見込みですが、当期は市況要因が79億円と大幅な増益要因となったことに対し、見通しでは市況要因を見込んでいないため、売上高は、16.3%増収の8,030億円、営業利益は、12.7%減益の350億円、経常利益は、11.7%減益の410億円、当期純利益は、11.6%減益の265億円を予定しています。

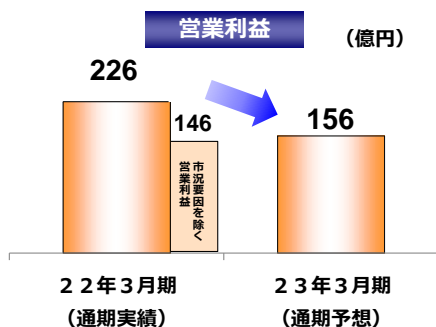
市況要因を除いた比較では、営業利益は前期比28億円、9.0%の増益、経常利益は前期比25億円、6.7%の増益の見通しとなります。

また、経常利益予想の410億円を達成すると、中期経営計画PLAN23の目標である400億円を1年前倒しでクリアします。なお、業績予想の前提となる為替の想定は、1ドル120円としており、LPガス輸入価格(CP)の想定は、上期は1トンあたり700ドル、下期は750ドルとしております。



通期業績予想の達成に向けて

- ・M&AによるLPガス直売顧客数の拡大
- ・エネルギー関連機器、BtoC商品の拡販
- ・カートリッジガス事業の拡大
 - 国内のアウトドア商品の拡販
 - 東南アジア・米国への海外展開強化



業績が変動するリスク要因

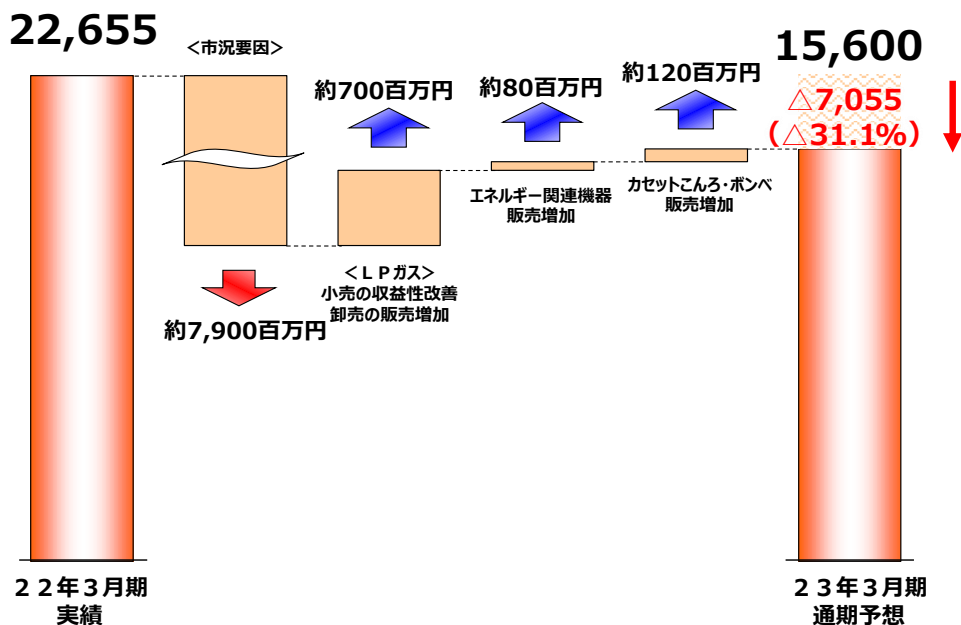
- ◇ LPガス輸入価格、為替の変動
- ◇ 気温変動による販売数量への影響

総合エネルギー事業は、
 売上高は、3,592億円で9.8%の増収、
 営業利益は、156億円で31.1%の減益を予想しております。

前期は、市況要因により、プラス79億円の影響がありましたが、
 今期は影響を見込んでおりませんので、市況要因を除くと、
 営業利益ではプラス9億円、6.2%の増益予想となります。

総合エネルギー事業 営業利益増減見通し

Iwatani
(単位：百万円)



Copyright © Iwatani Corporation. All rights reserved.

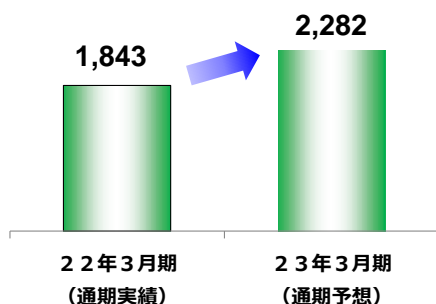
15

LPガスについては、LPガス直売顧客数の拡大と適正な価格転嫁に加え、配送の合理化・効率化を進めることにより、販売拡大と収益性の確保に努めます。

エネルギー関連機器は、半導体不足等によるガス機器の供給不足が今年の秋頃まで続くと想定されますが、下期以降は、徐々に販売が回復すると、見込んでおります。

カートリッジガス事業においては、アウトドア向けの需要拡大や、海外での拡販に努めてまいります。

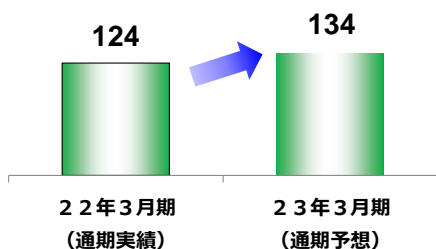
売上高 (億円)



通期業績予想の達成に向けて

- ・成長分野へのエアガスの拡販
- ・液化水素の新規需要創出
- ・ヘリウム安定供給と事業拡大
- ・成長分野への機械設備の拡販

営業利益 (億円)



業績が変動するリスク要因

- ◇ 電力料金・LNG市況上昇による製造コストへの影響
- ◇ 為替変動

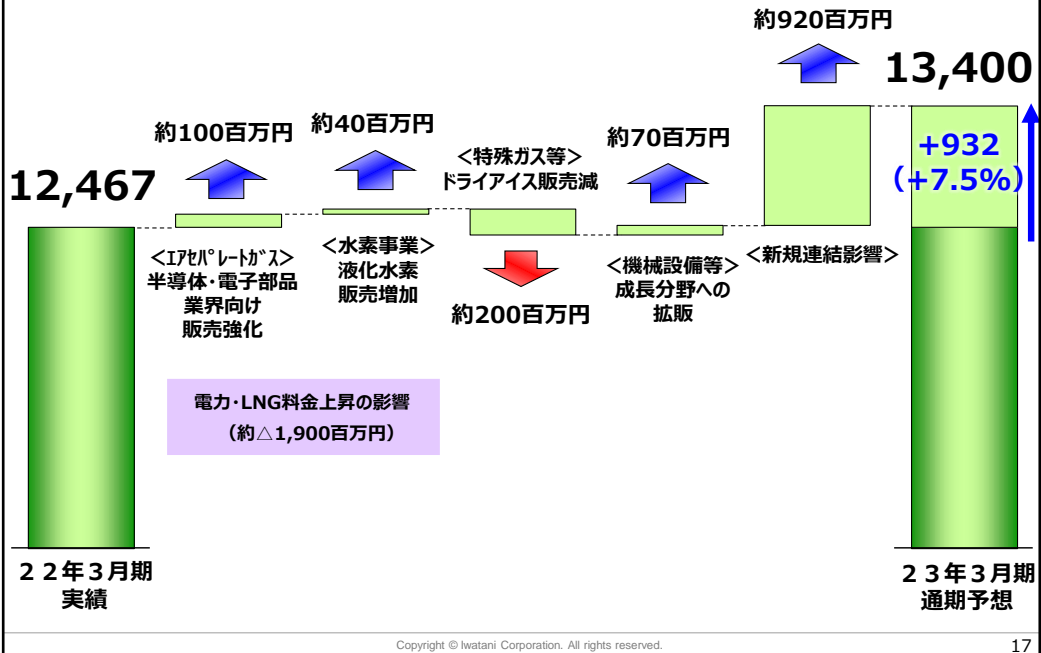
Copyright © Iwatani Corporation. All rights reserved.

16

産業ガス・機械事業は、
売上高は、2,282億円で23.8%の増収、
営業利益は、134億円で7.5%の増益を予想しております。

産業ガス・機械事業 営業利益増減見通し

Iwatani
(単位：百万円)



エアセパレートガス、並びに液化水素については、引き続き拡販に取り組みむとともに、電力料金の上昇に伴う製造コスト増加に対して、適正に価格改定を進めます。

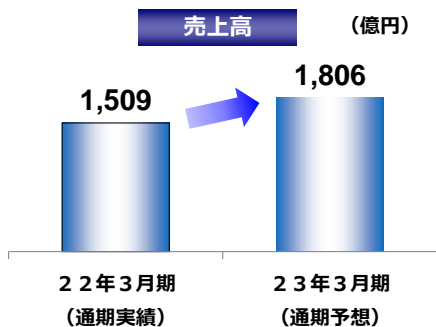
特殊ガスについては、ドライアイスの反動減を見込んでおりますが、ヘリウムは、需給のひっ迫が続く中、カタール、米国を中心とする既存ソースの供給力、新ソースの開拓により安定供給体制を強化し、販売拡大を図ります。

機械設備については、半導体、環境関連など成長分野への拡販を推進します。

新たに連結子会社となる、トキコシステムソリューションズ株式会社の23年3月期への影響は、約9億円の増益を見込んでおります。

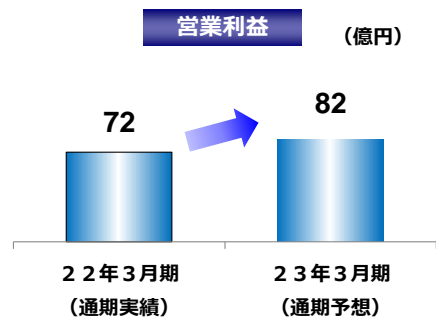
マテリアル事業の見通し

Iwatani



通期業績予想の達成に向けて

- ・資源事業の拡大
- ・海外金属加工事業の強化
- ・環境商品（低環境負荷PET樹脂・バイオマス燃料・二次電池材料）の拡販



業績が変動するリスク要因

- ◇資源市況の変動
- ◇為替変動

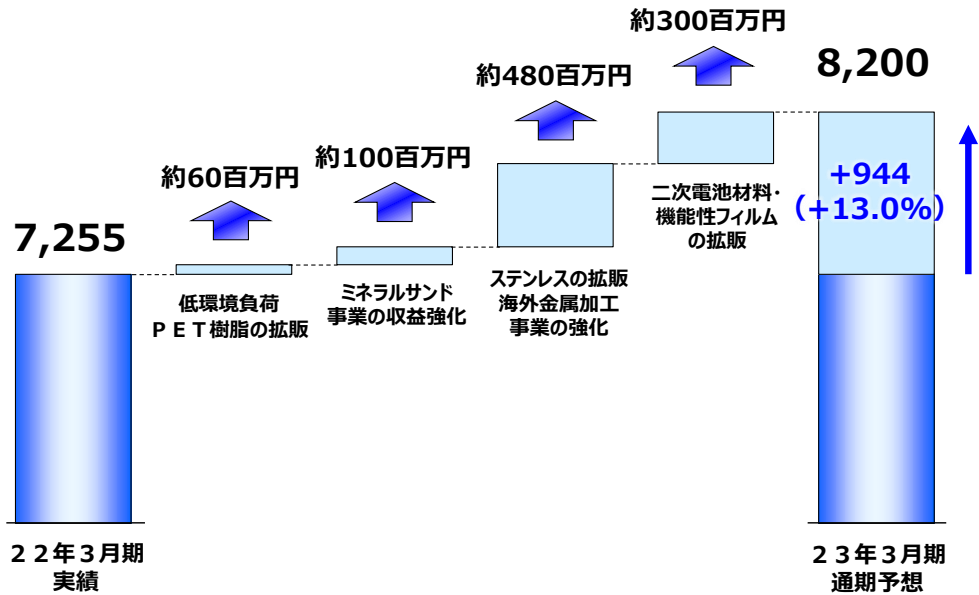
Copyright © Iwatani Corporation. All rights reserved.

18

マテリアル事業については、
売上高が1,806億円で19.6%の増収、
営業利益は82億円で13.0%の増益を予想しております。

マテリアル事業 営業利益増減見通し

Iwatani
(単位：百万円)



Copyright © Iwatani Corporation. All rights reserved.

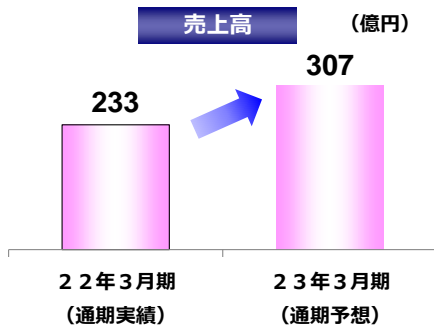
19

資源ビジネスは、ロシア・ウクライナ情勢や、中国での厳しいコロナ対策の影響など、世界的に供給面の懸念がありますが、引き続きミネラルサンド等の安定供給に努め、収益の拡大を図ります。

また、海外の金属加工事業や、スマートフォン向け機能性フィルム等、強みを持つ商品を伸ばすとともに、低環境負荷PET樹脂、バイオマス燃料、二次電池材料などの環境商品の拡販を進めます。

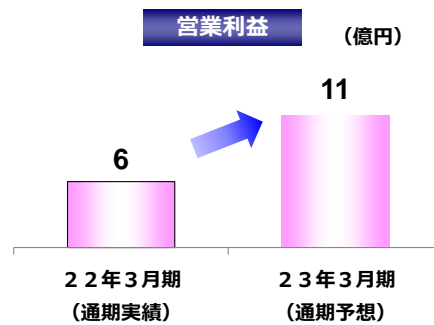
自然産業事業の見通し

Iwatani



通期業績予想の達成に向けて

- ・種豚の拡販
- ・農業・畜産設備の拡販



業績が変動するリスク要因

- ◇為替変動
- ◇原材料価格変動
- ◇天候不順

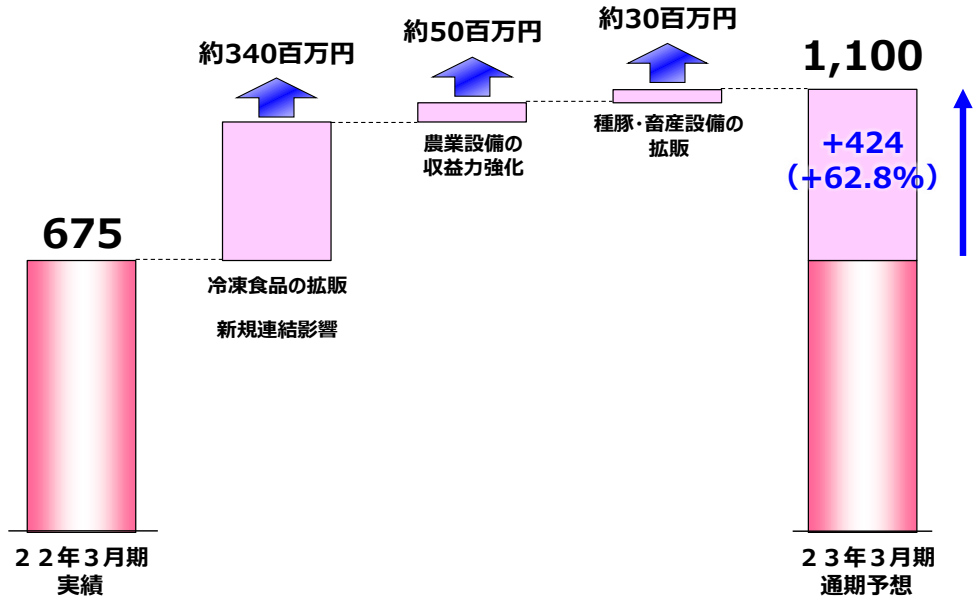
Copyright © Iwatani Corporation. All rights reserved.

20

自然産業事業については、
売上高は307億円で31.3%の増収、
営業利益は11億円で62.8%の増益を予想しております。

自然産業事業 営業利益増減見通し

Iwatani
(単位：百万円)



Copyright © Iwatani Corporation. All rights reserved.

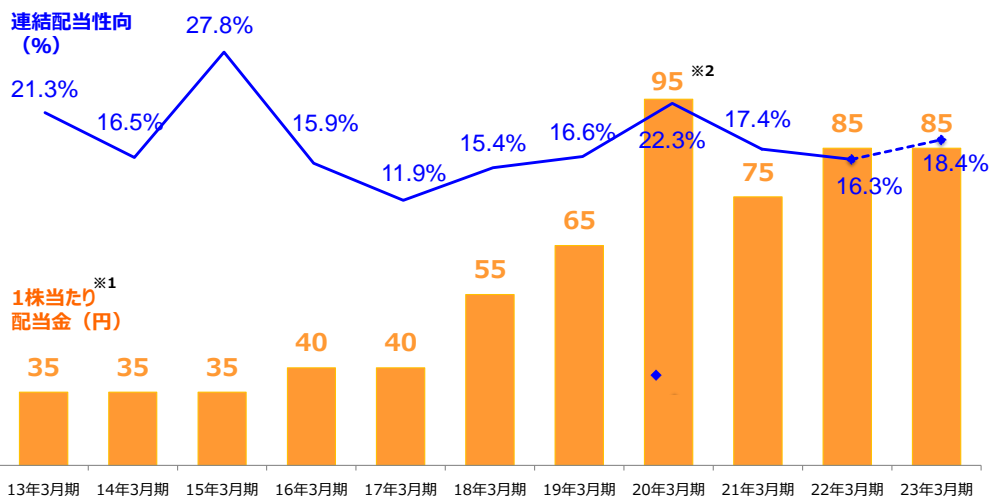
21

国際情勢が不透明な中で、食料自給率の向上が求められています。種豚事業では、今月、東北農場の新增設も完了しましたので、更なる種豚の拡販に努めてまいります。

また、食品事業では、新たにグループに加わった食品物流会社の機能を活用し、販路の拡大と、物流コスト削減に取り組みます。更に、農業ハウス等の農業用施設、および養豚設備の販売拡大を図ります。

配当方針

- ・継続的かつ安定的な配当の実施が基本方針
- ・業績や経営環境を勘案しつつ適正な利益還元を実施



※1 2013年3月期～2017年3月期の配当については、2017年10月の株式併合（5株→1株）の影響を考慮した金額
 ※2 うち記念配当20円含む

Copyright © Iwatani Corporation. All rights reserved.

2021年度の配当につきましては、期初予想から10円増配し、85円を予定しており、連結での配当性向は16.3%となります。これにより、増益を続けております この7年間で、1株当たり50円の増配を行ったこととなります。

今後とも業績や経営環境を慎重に考慮しながら、適正な利益還元を実施していきたいと考えております。

成長戦略について

CO2フリー水素サプライチェーン構築への挑戦 **Iwatani**

世界初となる日豪間での海上輸送・荷役の実証試験を完遂



神戸港に帰港した液化水素運搬船「すいそふろんていあ」



HySTRA実証試験 完遂記念式典

日豪サプライチェーン実証試験構成図



※日豪サプライチェーン実証実験のうち、赤字はHySTRAがNEDOより支援を受け実施。

※日豪サプライチェーン実証実験のうち、白字は豪州コンソーシアムが連邦政府およびビクトリア州政府より支援を受け実施。

Copyright © Iwatani Corporation. All rights reserved.

25

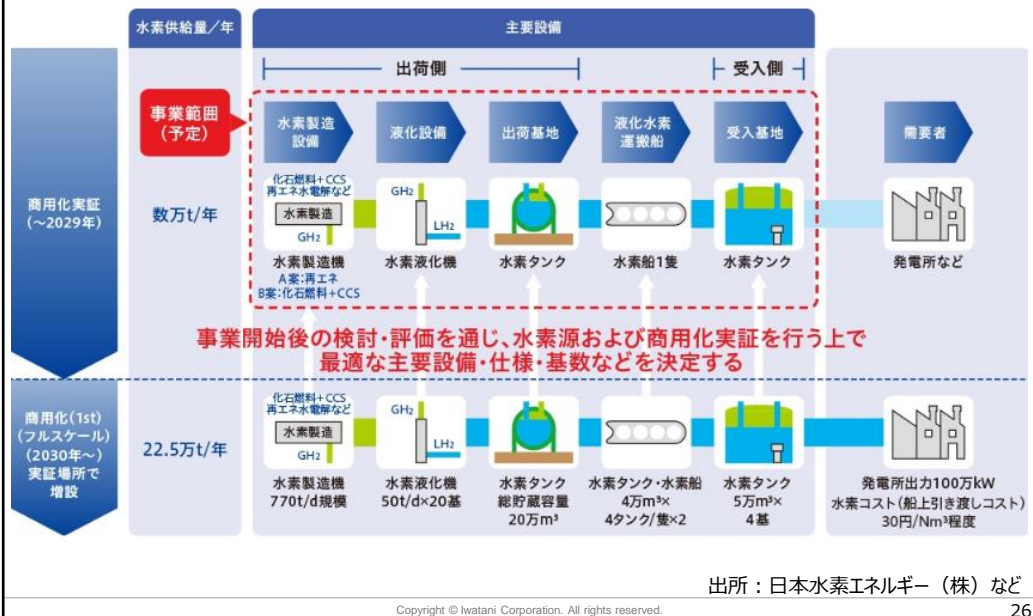
脱炭素の取り組みの中で、中長期的な成長の柱となるのは「水素事業」です。

エネルギー基本計画において、水素・アンモニアが将来の重要な資源として位置付けられ、水素エネルギー社会の実現に向けて、官民が一体となって、取り組みを加速させています。

その中で当社は、CO2フリー水素サプライチェーンの構築に挑戦しており、2016年より、オーストラリアの褐炭から液化水素を製造、輸入する実証事業(HySTRA)に取り組んでいます。今年2月には、世界初となる、液化水素運搬船による、日豪間の海上輸送・荷役の実証試験を成功させました。

CO2フリー水素サプライチェーン構築への挑戦 **Iwatani**

「液化水素サプライチェーンの商用化実証」を推進



26

この実証事業の成果を基に、次のプロジェクトとして「グリーンイノベーション基金事業」に採択されている「液化水素サプライチェーンの商用化実証」に取り組みます。

事業規模は3000億円を予定しており、年間数万トンの大規模な水素の液化・輸送技術を確認し、「水素・燃料電池戦略ロードマップ」の目標である、2030年の水素供給コスト、1立方メートルあたり、30円の実現を目指します。

現在、当社が販売している水素は年間約1万トンですので、その数倍の供給を行うことになります。液化水素運搬船は、HySTRAの130倍の規模となる予定です。また、30円のコストが実現すると、発電や産業用途への活用が視野に入り、需要も大幅に拡大する見込みです。既に、国内3大都市圏で、受入基地の候補地を検討するなど、具体的な活動を進めており、22年度は、今後の方向性を決める重要な年になると、考えております。

技術開発・エンジニアリング機能等の事業基盤強化

➤ メーカー・エンジニアリング機能の強化



➤ 水素ステーション事業・水素製造における協業



サプライチェーンの構築に向けては、技術開発やエンジニアリング機能の強化も課題となっています。

今年4月には、燃料電池自動車向けの水素ディスペンサーなど、エネルギー供給設備に強みを持つ、トキコシステムソリューションズの株式を100%取得し、メーカー・エンジニアリング機能の強化を図りました。

加えて、コスモエネルギーホールディングスとの間で、水素ステーション事業や水素製造に関わるエンジニアリング分野等で協業していく事を合意しました。

水素の製造から、輸送、販売まで、総合的にインフラを担う企業グループを目指し、技術・エンジニアリング面を含めて、事業基盤の強化を図ってまいります。

CO2フリー水素サプライチェーン構築への挑戦 **Iwatani**

RE100に取り組む企業への実証用途として液化水素を供給

- タンクローリーにより液化水素を実証施設まで運搬
- 将来的にはCO₂フリー水素の供給を計画



H2 KIBOU FIELD (パナソニック株式会社 草津拠点)
出所：パナソニック株式会社 プレスリリース (2022年4月15日)

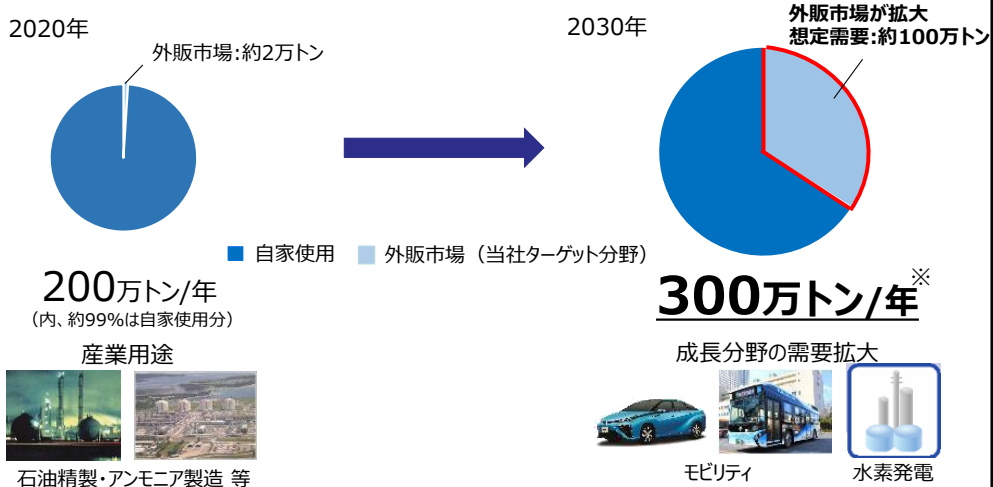
Copyright © Iwatani Corporation. All rights reserved.

28

水素の販売面では、従来の工業用ユーザーに加え、事業活動で消費するエネルギーを100%再生可能エネルギーで賄う「RE100」に取り組む企業向けなど、水素エネルギーの実証案件が増えております。

パナソニック株式会社の草津拠点では、燃料電池工場の製造部門の全使用電力を、太陽電池と同社製の「純水素型燃料電池」により賄っており、当社は、この実証に使用する液化水素を供給させていただいております。

水素需要拡大により当社水素事業は約10倍の規模に成長



当社水素事業 売上規模概算

約 200億円

約 2,000億円

※ 国内需要見通し 資源エネルギー庁 グリーン成長戦略における目標数値

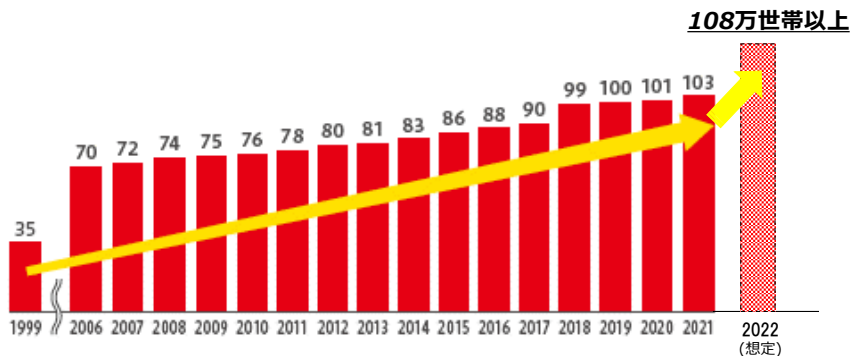
これらの取り組みにより、水素事業は力強い成長を見込んでおり、2030年には、現在の10倍程度となる、年間売上高2000億円を目指して拡大を図ります。

東京ガスエネルギー株式会社の株式を取得

直売顧客数 103万世帯 ⇒ **108万世帯以上**

卸売供給戸数 320万世帯 ⇒ **330万世帯以上**

＜直売顧客数の推移＞



Copyright © Iwatani Corporation. All rights reserved.

30

当社の主力事業であるLPガス事業については、業界の集約が進む中でM&Aを推進し、顧客基盤の拡大による成長を図っております。

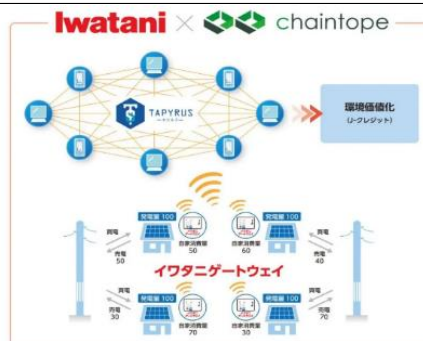
先月27日には、東京ガスグループのLPガス関連会社である、東京ガスエネルギーの株式取得を発表しました。株式取得後には、当社グループの直売顧客数は108万世帯以上、卸売ベースの供給世帯数は330万世帯以上に、それぞれ拡大する見通しです。

「イワタニゲートウェイ」を軸とした新しいサービス・価値の創造

子供の見守りサービス



CO2の環境価値化



データ分析

イワタニゲートウェイプラットフォーム

Copyright © Iwatani Corporation. All rights reserved.

31

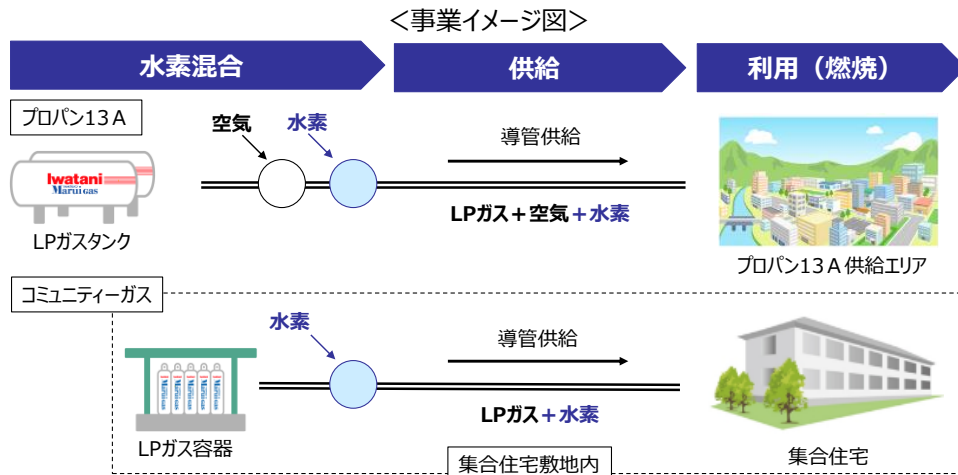
地域が直面する様々な社会課題に対して、独自のIoTプラットフォーム「イワタニゲートウェイ」を活用し、地域社会のカーボンニュートラル化の推進や、暮らしを支える新しいサービス・価値の創造に取り組んでおります。

この「イワタニゲートウェイ」を利用して、石川県羽咋市では、自治体や大学とも連携して、子供の見守りサービスを開始しました。長崎県五島市では、家庭に設置した太陽光パネルの発電データを集約し、CO2削減効果を取りまとめ、環境価値を創出する取り組みを進めています。

また、スタートアップ企業と連携し、要介護リスクを早期に検知する予防サービスの実証にも取り組んでいます。これらの取り組みにより、地域社会へ貢献するとともに、当社事業の成長に繋げてまいります。

一般住宅向けの水素・LPガス混合導管供給の調査研究開始

イワタニの強みを活かした水素×LPガスによる脱炭素化を推進



出所：国立研究開発法人新エネルギー・産業技術総合開発機構 資料をもとに当社にて作成
Copyright © Iwatani Corporation. All rights reserved.

LPガスの脱炭素化に向けては、昨年設立しました「岩谷水素技術研究所」にて、バイオガスやCO₂フリー水素を原料とするグリーンLPガス製造の技術開発を実施しています。

加えて、福島県内において、LPガスに水素を20%程度混合して導管供給する技術検証や、安全性の確認などの調査研究をスタートしています。

これは、一般住宅向けに導管で水素を供給し、既存の供給インフラ、燃焼機器を使用するという点で、国内初の取り組みとなります。

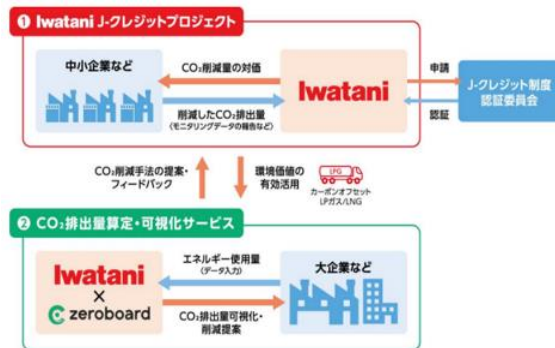
水素の活用も含めて、LPガス分野での、脱炭素化を進めることができるのは、イワタニの大きな強みだと考えております。

業界としての脱炭素化への対応をリードするとともに、LPガスの事業インフラを活用して、社会課題を解決する新事業や新サービスを創出し、業界全体の改革を推進してまいります。

産業用のお客様への脱炭素・低炭素ソリューションの提供

燃料転換の推進 → J-クレジット制度の活用

<Iwatani J-クレジットプロジェクトの概要>



※その他の低・脱炭素ソリューションについては、当社HPをご参照ください。

参考URL: <https://www.iwatani.co.jp/jpn/decarbonization/solutions/>

Copyright © Iwatani Corporation. All rights reserved.

33

産業用のお客様に対しては、水素やLPガスに加えて、
 マテリアルや産業ガス・機械などの各事業も含め、
 幅広い分野で脱炭素・低炭素ソリューションを提供しています。

具体的な取り組み例ですが、国が主導するJ-クレジット制度を活用し、
 「Iwatani J-クレジットプロジェクト」を創設しました。

お客様が、使用燃料を、LPガスやLNGに転換することにより
 削減されるCO2排出量を、当社が取り纏め、J-クレジットとして価値化し、
 お客様に還元することにより、CO2削減活動を加速させてまいります。

また、マテリアル事業では、バイオマス燃料やバイオマスPET樹脂など、
 サプライチェーンの脱炭素化に貢献する原材料を供給しており、
 自然産業事業でも、畜産事業のバイオガス活用などを検討しています。

Iwatani

水素で 世界を動かせ。

時代が問いかける。人類は次の100年を託せるエネルギーを持っているか。
私たちは答える。人類には水素がある。それは、決して枯渇することがない。
燃焼してもCO₂を排出しない、数あるエネルギーを凌ぐ大きなパワーを生み出すことができる。
水素は今、発電、車輪、鉄道、船舶、製鉄などさまざまな分野で、
脱炭素エネルギーの主役として大きな期待を集めている。
世の中に必要なものは、必ず世の中の当たり前になってゆく。だから、もっと進もう。
2050年、温室効果ガス排出実質ゼロ社会の実現を目指して。
水素で、社会を動かせ、時代を動かせ、世界を動かせ。



日本には、未来を変えるエネルギーがある。

水素シェア No.1
Iwatani
岩谷産業株式会社

Iwatani

Iwatani

＜参考資料＞

PLAN 2 3の進捗状況

PLAN23の進捗状況

Iwatani

1年前倒しでの経常利益400億円達成を目指す

【経営指標】

項目	2021年度 実績	2022年度 見通し	PLAN23 目標値
経常利益 [市況要因除く]	464億円 [384億円]	410億円	400億円
ROE (自己資本利益率)	11.7%	—	9%以上

PLAN 23の進捗状況

各重要事業指標は概ね順調に推移

【重要事業指標】

	2021年度 実績	PLAN 23 目標値
LPガス直売 顧客数	103万戸	110万戸
国内外 カセットこんろ・ボンベ 販売数量	こんろ 4,585千台 ボンベ 154百万本	こんろ 6,500千台 ボンベ 180百万本
エアセパレートガス 販売数量	16.7億m ³	17.0億m ³
液化水素販売数量	71百万m ³	90百万m ³

PLAN23の進捗状況

Iwatani

【売上高】

億円

	2021年度 実績	PLAN23 計画値	2021年度 差
総合エネルギー事業	3,271	2,780	+491
産業ガス・機械事業	1,843	2,093	△249
マテリアル事業	1,509	1,473	+36
自然産業事業	233	316	△82
その他・消去	45	48	△3
全社計	6,903	6,710	+193

PLAN 23の進捗状況

Iwatani

【利益】

億円

	2021年度 実績	PLAN 23 計画値	2021年度 差
総合エネルギー事業	226	180	+46
産業ガス・機械事業	124	125	△0
マテリアル事業	72	65	+7
自然産業事業	6	16	△9
その他・消去	△29	△31	+1
営業利益（全社計）	400	355	+45
経常利益	464	400	+64
市況要因を除く経常利益	384	400	△15
親会社株主に帰属する当期純利益	299	265	+34

Copyright © Iwatani Corporation. All rights reserved.

39

Iwatani

お問合せ先

岩谷産業株式会社 経営企画部 IR担当

TEL:06-7637-3470 FAX:06-7637-3333 Webサイト:<https://www.iwatani.co.jp>

将来にわたる部分につきましては、予想に基づくものであり、確約や保証を与えるものではありません。当然のことながら、予想と違う結果と成ることがあることを十分にご認識の上ご活用ください。